



# 日本私立歯科大学協会広報



## 目次

### 〈巻頭言〉

- 歯科医学の新たな地平  
チーム医療の深化と、デジタルが繋ぐ「情報のハブ」  
馬場 一美 ..... 2

### 〈大学のニュース〉

- 北海道医療大学歯学部
  - ・歯学部生のためのキャリアセミナー「ヤングフェス2025」を開催 ..... 4
  - ・「医療職体験ビレッジ～見る知る医療・福祉のお仕事～」を開催 ..... 4
  - ・中標津町、利尻富士町と包括連携協定を締結 ..... 4
  - ・公立千歳科学技術大学（千歳市）と包括連携協定を締結 ..... 4
- 岩手医科大学歯学部
  - ・解剖体慰霊祭が行われました ..... 4
  - ・ウェルかむ 2025 が行われました ..... 5
  - ・オープンキャンパス 2025 が開催されました ..... 5
  - ・動物慰霊祭が行われました ..... 5
- 奥羽大学歯学部
  - ・オープンキャンパス ..... 6
  - ・玉井利代子教授が国際学会「IADR/ PER 2025」で研究成果を発表 ..... 6
  - ・SCRIP 日本代表選抜大会に歯学部学生が参加 ..... 6
  - ・白衛消防訓練 ..... 7
- 明海大学歯学部
  - ・保健医療学部ホワイトコートセレモニーを開催しました ..... 7
  - ・宮田理事長がアメリカ UCLA・UCSF を訪問しました ..... 7
  - ・ウェスタンケープ大学が来学しました！  
〈さくらサイエンスプログラム〉 ..... 8
  - ・イタリア・シエナ大学の教員・学生が坂戸・浦安キャンパスを訪問 ..... 8
- 東京歯科大学
  - ・第6学年石坂大昂さん 第7回 JPS Student Clinical Skills Competition にて日本補綴歯科学会学術委員長賞を受賞 ..... 9
  - ・2025年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座開催 ..... 10
  - ・空軍軍医大学との姉妹校協定更新セレモニー開催 ..... 10
  - ・第5学年吉川和秀さん The 4th "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Students にて Best Performance award を受賞 ..... 11
- 昭和医科大学歯学部
  - ・「昭和医科大学附属横浜看護専門学校」開校予定（認可手続中） ..... 12
  - ・日本デジタル歯科学会学術大会 最優秀発表賞を受賞 ..... 12
  - ・日本顎関節学会総会学術大会で受賞 2年連続の表彰で最高賞「石橋賞」へと飛躍 ..... 13
  - ・唾液腺再生医療の研究で歯科基礎医学会ライオン学術賞を受賞 ..... 13
- 日本大学歯学部
  - ・歯学体を終えて ..... 14
- 日本大学松戸歯学部
  - ・オープンユニバーシティに出展しました ..... 14
- 日本歯科大学生命歯学部
  - ・中原貴教授（東京 再生）受賞 Springer Nature 社の「卓越編集者賞」 ..... 14
  - ・榎本准教授受賞 ..... 14
  - ・古木院生も受賞 ..... 15
- 日本歯科大学新潟生命歯学部
  - ・ハノシゴトフェスティバル新潟一小・中・高校生等249人が参加 ..... 15
  - ・『Odontology』25年目に新編集長に前田健康客員教授 ..... 15
  - ・「世界平和」学生論文コンクール優秀賞受賞 ..... 15

- 神奈川歯科大学
  - ・探求する中学生の学会「KDU STEAM FORUM 2025」開催 ..... 16
  - ・横須賀地域研究等連絡会公開研究フォーラム ..... 16
  - ・未来の夢が芽吹いた一日～キッズジョブよこすか2025開催～ ..... 16
- 鶴見大学歯学部
  - ・第38回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会での表彰について ..... 17
  - ・矢島愛美 助教 日本疼痛漢方研究会 優秀賞を受賞 ..... 17
  - ・解剖献体精霊供養法会を厳修 ..... 17
  - ・遠藤美紀 臨床助手 第25回日本歯科医学会学術大会ポスター賞（分科会大学院生部門）を受賞 ..... 18
- 松本歯科大学
  - ・第46回日本歯内療法学会学術大会・第23回日韓合同歯内療法学会学術大会「歯内療法への更なる飛躍 ―世界のPeakを目指して―」をテーマに開催 ..... 18
  - ・第41回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会を開催 ..... 19
  - ・学生代表団が中国河北省の承德医学院で初の臨床実習 ..... 20
  - ・第18回日本総合歯科学会総会・学術大会を開催 ..... 21
- 朝日大学歯学部
  - ・二階堂教授が基調講演及び表彰 ..... 21
- 愛知学院大学歯学部
  - ・藤田医科大学にて合同 IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました ..... 22
  - ・医療系学科1年生合同の IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました ..... 22
  - ・末盛キャンパス 歯学部臨床教育研究棟 第4回なごやグッドグリーン賞 大賞 受賞 ..... 23
  - ・歯学部附属病院の「北館 落成式」が行われました ..... 23
- 大阪歯科大学
  - ・川添堯彬学長が理事長に再任、盛山正仁前文部科学大臣が理事に就任されました ..... 24
  - ・歯学部卒業生がアメリカ歯科医師国家試験に合格！ ..... 24
  - ・SCRIP 日本大会 “第3位” 入賞！ 楠葉キャンパスで表彰授与式を行いました ..... 24
  - ・枚方市総合防災訓練 枚方ひこ防 z2025 に出展しました ..... 25
- 福岡歯科大学
  - ・福岡歯科大学・福岡医療短期大学新本館完成記念式典、内覧会および祝賀会を挙行 ..... 25
  - ・「歯と口の健康のつどい」で口腔がん検診を実施 ..... 26
  - ・上海交通大学口腔医学院学生訪問団が来学 ..... 26
  - ・口腔医学研究センターシンポジウムを開催 ..... 26

### 〈事業概要〉

- 総会 ..... 27
- 理事会 ..... 29
- 部会・委員会 ..... 33
- 事務局長会議 ..... 34
- 研修会 ..... 35
- 第16回歯科プレスセミナー ..... 37
- 〈日本私立歯科大学協会関係の諸会議〉
- 第51回全国私立歯科大学・歯学部附属病院看護部長会 ..... 37
- 第46回全国私立歯科大学附属病院薬剤部長会 ..... 38
- 第29回日本私立歯科大学・歯学部附属病院歯科技工士協議会 ..... 38
- 令和7年度全国私立歯科大学・歯学部附属病院診療放射線技師代表者会 ..... 38
- 〈叙勲〉 ..... 39
- 〈計報〉 ..... 39
- 〈人事異動消息〉 ..... 39
- 〈第57回全日本歯科学生総合体育大会の成績表〉 ..... 44
- 〈協会役員・部会・委員会名簿〉 ..... 47
- 〈賛助会員企業紹介〉 ..... 51
- 〈一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿〉 ..... 52
- 〈編集後記〉 ..... 52

## 巻頭言

# 歯科医学の新たな地平

## チーム医療の深化と、デジタルが繋ぐ 「情報のハブ」

昭和医科大学 歯学部長  
馬場 一美



我が国は現在、世界史的にも類を見ない速度で進行する少子高齢化の只中にあります。とりわけ18歳人口の急激な減少は、私立歯科大学にとって存立基盤そのものを揺るがす深刻な構造的課題です。志願者確保が年々困難を極める中、教育・研究・臨床の質をいかに維持し、さらに高みへと昇華させていくか。その負荷は、すでに持続可能性の限界に近い水準にまで達しています。

もはや、過去の成功体験への依存や漫然とした「現状維持」は、緩やかな衰退への道に他なりません。私たちは今こそ、大学の在り方を根底から問い直し、自らを変革する断固たる覚悟を持つべき時を迎えています。しかし、この状況を単なる悲観的な危機として捉える必要はありません。むしろ、歯科医学が真に社会から希求される「基盤医学」へと進化を遂げ、その価値を再定義するための、またとない好機であると私は確信しています。

事実、社会の実情に目を向ければ、歯科医療

に対する期待はかつてないほど高まり、かつ多角化しています。超高齢社会において国民の健康寿命を延伸するために、歯科医療が果たすべき役割は極めて大きいものがあります。単に歯の形態を修復するにとどまらず、咀嚼・嚥下機能の維持・回復、オーラルフレイルへの早期介入、さらには誤嚥性肺炎の予防は、いずれも喫緊の課題です。加えて、歯周病と糖尿病、循環器疾患、認知症など、口腔と全身の健康が密接に関連していることは、今や医学的常識として広く共有されています。

すなわち、現代の歯科医師は、口腔という臓器の専門家として国民の口腔健康増進を担うのみならず、全身の状態を俯瞰し管理できる資質を備えた「オーラルフィジシャン」としての役割を期待されています。この新たな歯科医師像を確立し、優れた人材を社会に送り出すことこそが、私たちに課された社会的責務であり、歯科大学が未来へ向けて存続・発展していくための確かな道筋であると考えます。

では、こうした次世代を先導する人材はいかにして生まれるのでしょうか。その鍵は、多職種が連携する「チーム医療」を実践的に学ぶ教育環境の構築にあります。その先駆的な取り組みとして、昭和医科大学では、医系総合大学としての強みを最大限に活かし、学部間の垣根を越えた横断的な教育カリキュラムをいち早く導入してきました。特に、初年次からの全寮制教育を通じて生活と学修を共にする経験は、将来のチーム医療の基盤となる「他職種への深い敬意」と「信頼関係」を育む、唯一無二の教育土壌となっています。

そして、新たに開設される鷺沼キャンパスでは、2年生から4年生までの4学部の学生が再び一堂に会し、互いの専門性と価値観を尊重し合いながら学ぶプロセスを共有します。教科書からは決して得られない「他者への共感」と「相互理解」の精神を、学生時代から魂に刻むこと。学部の垣根を越えて日常的に顔を合わせ、切磋琢磨する環境こそが、チーム医療を肌感覚で理解し、歯科医療の本質を自覚する原動力となります。

この「オーラルフィジシャン」としての役割を、臨床現場で力強く支えるのが、デジタルトランスフォーメーション（DX）です。DXは単なる業務効率化にとどまらず、チーム医療を劇的に加速させる「触媒」となります。例えば、口腔内スキャナー等を用いて口腔環境を数値や画像として可視化することは、患者ばかりでなく、医師、薬剤師、看護師といった他職種

に対して、極めて客観的で説得力のある「共通言語」を提供します。

これまで「見えにくい」とされてきた口腔の形態や機能がデジタルデータによって「見える化」されることで、歯科・口腔健康は医療における「情報のハブ」となり、真の意味での医科歯科連携を牽引する中核を担うことが可能となります。

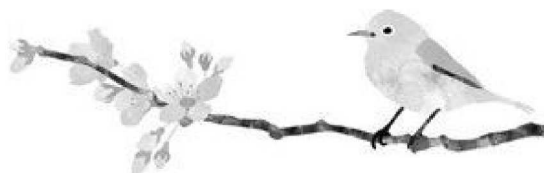
私たちは、この鷺沼キャンパスという新たな学び舎を拠点に、デジタルがもたらす革新と、人間への深い共感を融合させながら、歯科医学の新時代を力強く切り拓いていく決意です。

#### 〈筆者の略歴〉

- 1986年 3月 東京医科歯科大学歯学部卒業
- 1991年 3月 東京医科歯科大学大学院修了  
(歯学博士)
- 1993年 4月 東京医科歯科大学歯学部 助手
- 1996年 4月 文部省在外研究員米国 UCLA
- 2002年 7月 東京医科歯科大学 講師
- 2007年 10月 昭和大学 歯科補綴学講座 教授  
現職
- 2013年 4月 昭和大学歯科病院 副病院長
- 2019年 4月 昭和大学歯科病院 病院長
- 2023年 4月 昭和大学歯学部 歯学部長
- 2021年 6月～2023年 6月  
日本補綴歯科学会 理事長
- 2025年 4月 昭和医科大学歯学部 歯学部長 (校名  
変更による) 現職
- 2026年 1月 国際補綴歯科学会 理事長



図 口腔内スキャナーの導入により、口腔の形態および機能データのデジタル化が簡便に行えるようになった。



## 大学のニュース

### ■北海道医療大学歯学部■

#### 歯学部生のためのキャリアセミナー「ヤングフェス2025」を開催

2025年7月5日(土)に北海道医療大学歯学部同窓会主催で未来の歯科医師のためのキャリアセミナー「ヤングフェス2025」を開催しました。このイベントは同窓会としてこれから歯科医師をめざす学生に何か還元できることはないか、と若手の本学教員が中心となって企画したもので今回が初めての開催となります。

歯学部在学学生をメインとして、歯学部を受験予定・歯科医師をめざしてみたいと考えている高校生も対象としたセミナーで、現役歯科医師として働く卒業生や北海道医療大学歯学部で勤務する卒業生などが登壇し、パネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは、臨床研修先をどのように選んだか、大学院進学や子育てをしながらなどのキャリアアップのこと、認定歯科医師・専門歯科医師を取得する意義、そして卒業生へ行ったアンケートなども活用し、初任給のことや勤務歯科医師と開業歯科医師のメリット・デメリットなど、参加者がよりリアルに将来を考えられるような内容になっていました。



北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和7年9月掲載)

#### 「医療職体験ビレッジ～見る知る医療・福祉のお仕事～」を開催

2025年8月18日(月)・19日(火)の2日間、医療・福祉の職業を紹介するイベント「医療職体験ビレッジ～見る知る医療・福祉のお仕事～」を開催しました。

会場内のブースでは、本学でめざすことのできる職業(薬剤師・歯科医師・看護師・福祉職・公認心理師・理

学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床検査技師・歯科衛生士・データサイエンティスト)について、実際の業務を体験できるプログラムを提供しました。参加者からは「本物の医療器具を使えて楽しかった」「医療の仕事に興味がわいた」「将来の進路を考える参考になった」といった感想を多数いただきました。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和7年8月掲載)

#### 中標津町、利尻富士町と包括連携協定を締結

2025年8月27日(水)に中標津町と、2025年9月30日(火)に利尻富士町と包括連携協定を締結しました。

今回の協定は、北海道医療大学と包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することを目的として締結されたものです。

人的・知的資源の交流をはかるとともに物的資源を活用し、協力して地域貢献を目指します。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和7年8月、10月掲載)

#### 公立千歳科学技術大学(千歳市)と包括連携協定を締結

2025年10月6日(月)、公立千歳科学技術大学(千歳市)と包括連携協定を締結いたしました。

本学と公立千歳科学技術大学は、2009年に大学院修士課程の単位互換認定を行うための「5大学連携事業(戦略的連携支援事業:文部科学省)」において連携協定を締結して以来、大学院教育を中心に緊密な関係を維持してまいりました。

今後、本協定に基づいて、「医療福祉分野におけるデータサイエンス教育の推進」、「データサイエンティストの育成」、ならびに「医療福祉DX領域における学際的研究の推進」などをすすめていきたいと考えています。

北海道医療大学ホームページトピックス  
(令和7年10月掲載)

### ■岩手医科大学歯学部■

#### 解剖体慰霊祭が行われました

6月28日(土)、大堀記念講堂において、第88回解剖体慰霊祭がしめやかに執り行われ、小笠原学長をはじめ

とする本学教職員と学生、ご遺族が参列しました。

慰霊祭では75霊（正常解剖58霊、病理解剖14霊、実践的手術手技向上研修3霊）の御霊に対する黙禱に続き、小笠原学長から祭詞、学生を代表して医学部3年生高橋希さんから慰霊のことばが捧げられました。

式終了後、参列者全員による献花が行われ、ご献体された多くの方々への深い感謝の意を表すると共にご冥福をお祈りしました。



慰霊のことばを捧げる高橋さん

岩手医科大学報 vol.560（令和7年7月発行）

## ウェルカム 2025 が行われました

8月2日(土)、歯科医療センターにおいて、歯科医療センターの様々な業務や活動内容を紹介し、体験を通じて歯科医療に興味・関心をもってもらうことを目的に「ウェルカム 2025」が行われました。小学生から中学生までの生徒さんとその保護者の方々が参加し、型取り体験、歯科デジタル機器の操作体験、顕微鏡での細菌チェックの他、虫歯菌の動画解説も行われました。

参加者からは「体験できないことをたくさん体験できておもしろかった」「今日のイベントを通して、デジタルで模型を作れるということを知った」等の感想が述べられました。



型取り体験

岩手医科大学報 vol.561（令和7年9月発行）

## オープンキャンパス 2025 が開催されました

7月26日(土)、27日(日)の両日、矢巾キャンパスで

オープンキャンパス 2025 が開催され、岩手県内をはじめ全国各地から高校生や保護者など1,018名が参加しました。

当日は入学を希望する学部に分かれての学部紹介やミニ講義、体験実習のほか、在学生とのフリートーク、キャンパスツアー、教員との進学相談会等、たくさんの企画が用意され好評を博しました。

参加者からは「イベントが多く満足度がとても高かった」「初めてキャンパスの中に入りとてもワクワクした。受験勉強をする上でいい刺激になった」との感想が寄せられ将来の進路を決める為の有意義な機会となったようでした。



多くの人で賑わうキャンパスモール



在学生とのフリートーク

岩手医科大学報 vol.561（令和7年9月発行）

## 動物慰霊祭が行われました

10月16日(木)、大堀記念講堂で、第58回動物慰霊祭が執り行われ、小笠原学長をはじめとする教職員のほか、医・歯・薬学部の学生が参列しました。

昨年度の教育及び研究に供された動物に対する黙禱の



学生代表 慰霊のことば

後、小笠原学長から慰霊のことばが捧げられました。続いて学生を代表し歯学部2年生近藤愛佳さんから慰霊のことばがありました。

式終了後、参列者全員が慰霊柱を参拝し、本学の教育・研究に貢献した動物実験の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。

岩手医科大学報 vol.562 (令和7年11月発行)

## ■ 奥羽大学歯学部 ■

### オープンキャンパス

8月9日(土)・23日(土)の2回にわたり、本学にてオープンキャンパスが開催され、200名を超える高校生・保護者の参加があった。清浦有祐学長が挨拶した後、瀬川洋歯学部長、押尾茂薬学部長が各学部の教育理念、カリキュラム、国家試験合格支援体制、卒業後の進路について詳しく説明した。また、キャンパスツアーや模擬授業、体験実習を通じて、教育内容や研究設備、学生生活への理解を深めてもらった。参加者からは、「教員と学生の距離が近く安心できる」「実習施設が充実している」などの声が寄せられ、将来の学びのイメージを具体的に持つことができたようだ。

これからもオープンキャンパスを通じて、本学の魅力を発信していく予定である。



全体説明会



オープンキャンパスでの救命措置体験

奥羽大学報 181号 (No.306) (令和7年10月発行)

## 玉井利代子教授が国際学会「IADR / PER 2025」で研究成果を発表

歯学部口腔病態解析制御学講座の玉井利代子教授が、6月25日(水)から28日(土)にスペイン・バルセロナで開催された第103回国際歯科研究学会総会 (103rd General Session & Exhibition of the IADR / Pan European Region) において、最新の研究成果を発表した。発表演題は「Alendronate augments lipid A-induced IFN- $\beta$  production and Nur77 expression (アレンドロネートはリポドAが誘導するインターフェロン $\beta$ 産生とNur77発現を増強する)」。アレンドロネートは骨粗鬆症の治療薬として広く用いられているが、本研究ではその免疫調節作用に着目し、リポドA刺激下でのインターフェロン $\beta$ 産生および転写因子Nur77の発現への影響を明らかにした。

奥羽大学報 181号 (No.306) (令和7年10月発行)

## SCRP 日本代表選抜大会に歯学部学生が参加

8月5日(火)、日本歯科医師会スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム (SCRP) が日本歯科医師会館で開催され、本学5年生の金昌桓さんが、Analysis of diagnostic accuracy using three-dimensional images of dental conebeam CT (歯科用コーンビームCTの三次元画像による診断精度の解析)と題した発表を行った。

本大会は、年に1回開催される歯学部学生の研究発表会であり、今回は18歯学部の代表が発表した。世界大会の日本予選を兼ねており、発表および質疑応答は英語で行われた。



発表をする金昌桓さん

奥羽大学報 181号 (No.306) (令和7年10月発行)

## 自衛消防訓練

6月17日(火)、附属病院において今年度1回目の自衛消防訓練が実施された。訓練は、1.地震発生時の避難誘導、2.火災発生時の通報連絡・119番のかけ方、3.火災発生時の避難誘導、4.救助袋による避難訓練の順で行われた。

その後、1階玄関ホールにて様々な消防設備の取り扱い説明を受けた後、参加者による消火訓練が実施された。今回の自衛消防訓練には62名にのぼる参加者があり、皆真摯に訓練を行っていた。



消火訓練をする教職員



救助袋による避難訓練

奥羽大学報 181号 (No.306) (令和7年10月発行)

## ■ 明海大学歯学部 ■

### 保健医療学部ホワイトコート セレモニーを開催しました

7月6日、「2025年度保健医療学部ホワイトコートセレモニー」を開催しました。

医療従事者としての自覚や責任感を持った歯科衛生士をめざしてもらうことを目的に、ホワイトコート(白衣)の授与を行う式典として1年次を対象に毎年開催しています。

学生に授与されたホワイトコートは明海大学歯学部同

窓会及び浦安キャンパス同窓会により、学生の歯科衛生士へのモチベーション向上を図るために贈呈されたものです。学生代表として登壇した田巻真菜さんからは「知識と技術を磨き、仲間とともに成長し、医療人としての自覚と責任をもった歯科衛生士をめざします」と宣誓がありました。



明海大学ホームページ (令和7年7月掲載)

### 宮田理事長がアメリカ UCLA・ UCSF を訪問しました

本学では、海外協定校であるカリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA)および姉妹校の朝日大学との共同事業として、1999年より日本国内で唯一の大学運営による「歯科生涯研修プログラム」を展開してまいりました。

このたび宮田淳理事長がUCLAを訪問し、Paul H. Krebsbach 歯学部長、研修部長をはじめとする関係者との協議を行い、これまで実施してきた共同研修のさらなる発展に向けた意見交換を行いました。

訪問期間中には、本学および朝日大学の歯学部生によるUCLAでの海外研修プログラムも実施されており、長年にわたり続く学生間の国際交流について、宮田理事長は深い感謝の意を表しました。また、歯科生涯研修プログラムの立ち上げと発展に多大な貢献をされたUCLA歯学部のヘンリー・タケイ博士の名を冠する「ヘンリー・



UCLAのJulio Frenk 総長(左)と宮田理事長

「タケイ・シンポジウム」にも出席しました。

さらに、カリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) では、以前より交流のあるマイケル・レディ歯学部長および執行部の先生方と、本学との共同による歯科生涯研修プログラムの新規開催に向けた協議を実施しました。

本学は今後も、世界をリードする歯科医療教育機関との連携を通じて、歯科医療従事者の専門性向上と、国際的な継続教育の充実に貢献してまいります。



UCLA の Julio Frenk 総長(左)、宮田理事長(中央)、UCLA の Paul H. Krebsbach 歯学部長(右)を囲んで



研修で訪問中の歯学部生と



ヘンリー・タケイ・シンポジウムに参加のヘンリー・タケイ教授ご夫妻(前列)

明海大学ホームページ (令和7年9月掲載)

## ウェスタンケープ大学が来学しました！ 〈さくらサイエンスプログラム〉

10月7日、海外協定校である南アフリカのウェスタンケープ大学 (UWC) から、教員1名と学生7名が本学歯学部 (坂戸キャンパス) を訪問しました。

菊池建太郎学生部長による歓迎の挨拶ののち、本学オリジナルのはっぴをプレゼント。UWCの教員・学生の皆さんは笑顔で袖を通し、記念撮影は和やかな雰囲気にも包まれました。

その後は講義を受講し、キャンパス内の施設や付属病院の見学を実施。短期間ながら充実した交流となりました。

本交流は、国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST) が実施する「さくらサイエンスプログラム」の一環として行われています。世界の若い人材が日本の最先端科学技術や文化に触れることで、新たな時代を担う国際的なつながりが育まれています。



明海大学ホームページ (令和7年10月掲載)

## イタリア・シエナ大学の教員・学生が 坂戸・浦安キャンパスを訪問

海外協定校であるイタリア・シエナ大学より、研修生2名と引率教員が歯学部交換研修プログラム (\*) の一環として坂戸・浦安の両キャンパスを訪問しました。

11月5日には坂戸キャンパスにて、本学の国際交流や教育・研究活動についての紹介を受けた後、付属病院を見学。医療設備や臨床現場の様子に熱心に見入る姿が見られました。昼食時には歓迎ランチパーティーが催され、学生や教職員との活発な交流を通じて、終始温かな

雰囲気の中で親交を深めました。

翌6日には浦安キャンパスを訪問し、中寫裕学長を表敬訪問。中寫学長との懇談では双方の教育や文化について意見を交わし、和やかな雰囲気の中で相互理解を深めました。その後、PDI 浦安歯科診療所を見学し、本学における臨床教育の取り組みについて理解を深める機会となりました。

明海大学歯学部では、国際的な視野を持つ歯科医師の育成を目指し、海外研修制度や協定校との交換研修を継続的に実施しています。

- (\*) 交換研修プログラム：本学歯学部では、費用大学負担による海外研修制度を設けるとともに、海外協定校からの研修生受け入れを行い、国際的な歯科医師の養成を推進しています。



坂戸キャンパス



浦安キャンパス

明海大学ホームページ（令和7年11月掲載）

## ■ 東京歯科大学 ■

### 第6学年石坂大昂さん 第7回 JPS Student Clinical Skills Competition にて日本補綴歯科学会 学術委員長賞を受賞

2025年6月1日(日)に、GC コーポレートセンター(文京区)において開催された日本補綴歯科学会主催第7回 JPS Student Clinical Skills Competition にて、第6学年の石坂大昂さんが日本補綴歯科学会学術委員長賞を受賞した。

本コンペティションは、的確な臨床判断能力と高いレベルの臨床技能を持ち、将来の補綴歯科臨床で活躍する歯学部学生を育成することを目的とした学生技能競技会である。

2019年より始まった本コンペティションは、今回から文部科学省の後援を受けて実施され、第1位には文部科学大臣賞が授与される。実技課題は、より幅広く臨床的な要求に応えられるように、CAD/CAM冠の保険適応の拡大に対応した内容として、ハイブリッドレジンでのCAD/CAM冠を想定した下顎左側第一大臼歯の支台歯形成であった。全国の歯科大学・歯学部の代表者が参加した一次審査により上位6名が選抜され、同会場にて最終選考が実施された。

本学では、第5年次に学内選考を行い、代表者1名を決定した。その後、主にクラウンブリッジ補綴学講座の露木 悠講師の指導のもと、臨床実習プログラム期間から約2か月間、実技試験のための自主練習を行った。最終選考に選抜された第6学年の石坂さんは、最終選考の実技試験においても実力を発揮して、第3位入賞である日本補綴歯科学会学術委員長賞を受賞した。本人の努力はもとより、本学における技能教育や診療参加型臨床実習の成果が実を結んだ結果である。



受賞した石坂さん(中央右)と澤瀬隆日本補綴歯科学会学術委員長(中央左)、引率した四ツ谷護講師(右)、上田貴之教授(左)



審査直前に円陣を組む参加学生たち



二次審査の実技試験(支台歯形成)を行う石坂さん

東京歯科大学広報 第319号(令和7年9月発行)

## 2025年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座開催

2025年6月14日(土)午後1時30分より、水道橋校舎本館12A講義室において、2025年度東京歯科大学公開講座・千代田区民公開講座が開催された。昨年と同様に、東京歯科大学白菊会の総会と同日開催とし、白菊会



講演する大久保准教授

会員および千代田区民の皆さまより多数の参加をいただいた。

口腔健康科学講座摂食嚥下リハビリテーション研究室の大久保真衣准教授による「いつまでも美味しく食べるために～オーラルフレイルと口の健康～」と題した講演は、専門的な内容を患者目線に立ちわかりやすい内容でお話いただき、参加者から「大変わかりやすかった」「大変勉強になった」など、多くの声をいただいた。

本公開講座は「千代田区内大学と千代田区の連携協力に関する基本協定」に基づき開催されており、当日は千代田区の樋口高顕区長もご来場された。



樋口区長、片倉朗学長(左)、大久保准教授(右)

東京歯科大学広報 第319号(令和7年9月発行)

## 空軍軍医大学との姉妹校協定更新セレモニー開催

2025年10月16日(木)午前10時30分より、クジャン国際カンファレンスセンター(中国・西安)において、空軍軍医大学との姉妹校協定更新のセレモニーが開催された。

セレモニーには、本学より片倉 朗学長、薬師寺 仁名誉教授、櫻井敦朗小児歯科学講座准教授、黄地健仁生理学講座講師(国際交流部)が出席し、先方からは、院長のLina Niu教授はじめWenguang Niu 共産党書記ら7名が出席した。

空軍軍医大学と本学は、2005年に小児歯科学講座を中心とした学術交流をきっかけに姉妹校を締結した。今回、本学と長年交流のあるXiaojing Wang小児歯科前教授の同席もあり、今後に向けた活発なディスカッションが行われた。

今回の姉妹校協定更新により、今後、1) 教員、研究者、職員間の相互訪問、2) 学部生および大学院生の交流および研修機会の促進、3) 共同研究の推進および実施、4) 学術イベントおよび講演会の共同開催、5) 学術情報、資料、図書資料、雑誌などの交換、といった大

学間の交流や発展につながるものと期待される。今回の更新で、本学と空軍軍医大学の姉妹校は2030年9月まで継続される。



協定更新セレモニーにて握手する片倉学長(左)とNiu院長



セレモニー参加者による記念撮影

東京歯科大学広報 第320号 (令和7年12月発行)

## 第5学年吉川和秀さん The 4th "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Students にて Best Performance award を受賞

2025年10月13日(月)から18日(土)の6日間、本学学生代表の吉川和秀さん(第5学年)と、引率教員としてクラウンブリッジ補綴学講座の四ツ谷護講師が、本学の姉妹校である空軍軍医大学第三附属医院(AFMU)が主催するThe 4th "Silk Road Cup" International Clinical Skills Exchange Event for Dental Studentsに参加する目的で、中国・西安市を訪問した。現地では、本学の薬師寺仁名誉教授と小児歯科学講座の王小競客員教授に帯同いただいた。

International Clinical Skills Exchange Eventは、Xi'an Qujiang Convention and Exhibition Centerにおいて開催され、参加校は中国国内の30大学と海外招待の4大学(東京歯科大学、大阪歯科大学、スペインのマドリード・

コンプルテンセ大学、オーストリアのウィーン医科大学)であった。

技能課題は、「オールセラミッククラウンの支台歯形成」、「ラバーダム防湿下でのう蝕除去およびインレー窩洞形成」、「口腔内での切開および縫合」をそれぞれ25分で、「AEDを用いた心肺蘇生法」を8分で実施するものであった。

前日打ち合わせでは、会場に技能課題で使用する器材がセッティングされており、使用方法について念入りに確認することができた。

コンペティション当日、空軍軍医大学との姉妹校協定更新セレモニーに訪れていた片倉朗学長と小児歯科学講座の櫻井敦朗准教授および生理学講座の黄地健仁講師も技能交流会にご参加いただき、課題実施中の学生にエールを送る場面もあった。吉川さんは、歯学部学生部門にて見事Best Performance awardを受賞した。

午後には、AFMUの趙鈺民教授が監修し設立した国際口腔医学博物館を見学し、牛麗娜院長をはじめする大学幹部の先生方や海外招待校の参加者を含めた全体レセプションが執り行われた。また海外招待校として参加した大阪歯科大学の学生代表と引率教員(歯科理工学教授の橋本典也先生)とは、技能コンペティション課題に関する教育状況の情報交換を行い、AFMU見学やレセプションおよび観光の際に親睦を深めることとなった。

このような歯科医療に必須の技能教育に関する国際的な学術交流は、学生の将来的なキャリアビジョンを検討するうえで非常に有意義なイベントであった。



技能コンペティション直前の様子



支台歯形成の技能課題の様子



心肺蘇生の技能課題の様子



Best Performance Award を受賞した吉川さん(中央)

東京歯科大学広報 第320号 (令和7年12月発行)

## ■ 昭和医科大学歯学部 ■

### 「昭和医科大学附属横浜看護専門学校」 開校予定(認可手続中)

昭和医科大学は、2027年4月、本学として2校目となる看護専門学校「昭和医科大学附属横浜看護専門学校」を、神奈川県横浜市緑区に開校する準備を進めています。

本学は建学の精神として「至誠一貫」を掲げ、「常に相手の立場に立ち、まごころを尽くす」という信念のもと、社会に貢献できる優れた医療人の育成に取り組んでいます。

本校もこの理念を受け継ぎ、専門的な知識・技術に加えて多職種連携を理解し、豊かな感性と倫理観をもって医療に貢献できる看護師の育成を目指します。

#### 学校概要

名称：昭和医科大学附属横浜看護専門学校  
開校予定：2027年4月  
所在地：神奈川県横浜市緑区十日市場町  
1865番地（横浜キャンパス内）  
定員：1学年80名（総定員240名）  
修業年限：3年  
※認可手続中であり、内容が変更となる場合があります。

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS (昭和医科大学新聞)

第628号 (令和7年12月発行)

## 日本デジタル歯科学会学術大会 最優秀発表賞を受賞

芳賀秀郷准教授（歯学部歯科矯正学講座）、中納治久教授（同）、株式会社ブレインパッドらの共同研究グループが、日本デジタル歯科学会第16回学術大会（5月10日～11日：日本歯科大学生命歯学部）において、演題名「深層学習を用いた不正咬合分類モデルによる診断サポートの実現可能性検証」にて最優秀発表賞を受賞しました。

日本デジタル歯科学会は、国民に対して安全、良質な歯科医療を提供するためにデジタルソリューションの普及を図るとともに、それにより国民の健康増進及び福祉の向上に貢献することを目的としています。今年度は「デジタル技術の潮流と革新—デジタル技術は歯科医療を変革したか?—」をテーマに掲げ、開催されました。

#### 【芳賀秀郷准教授のコメント】

この度は、このような栄誉ある賞を賜り、誠に光栄に存じます。関係者の皆様に心より御礼申し上げます。今回の発表では、深層学習（AI技術）を応用して、日常臨床で撮り溜めた口腔内のデジタル写真から不正咬合の診断サポートを試みた研究になります。また、本研究は2024年に株式会社ブレインパッドと締結した「矯正歯科診療データを用いたAI解析」に関する共同研究契約のプロジェクトの1つであり、大学と企業の各々の強みを活かした産学連携である本研究が評価されたことは大変嬉しく思います。

これから乗り越えていかなければならない課題も多々ございますが、歯科臨床への還元や社会実装を目指し進めていきたいと考えております。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS (昭和医科大学新聞)

第627号 (令和7年10月発行)

## 日本顎関節学会総会学術大会で受賞 2年連続の表彰で最高賞「石橋賞」 へと飛躍

澁坂和大助教（歯学部歯科矯正学講座）が、第38回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会（7月11日～13日：学術総合センター）において、演題名「エストロゲン欠乏と関節円板転位が下顎頭骨変性に及ぼす相乗効果」で、石橋賞（最優秀賞）を受賞しました。

今回の受賞は、昨年の大会長賞に続き、2年連続の快挙となります。

### 【澁坂和大助教のコメント】

このたび、日本顎関節学会学術大会において石橋賞（最優秀賞）を賜り、大変光栄に存じます。

本研究は、女性ホルモンの減少や関節円板の位置異常などによって誘発される変形性顎関節症（TMJ-OA）の病態メカニズムの解明を目的とし、マウスモデルを用いて、女性ホルモンの低下と関節円板の転位が下顎頭の病態変性に寄与していることを明らかにした基礎研究です。

本研究の責任著者である矢野文子准教授（統括研究推進センター）をはじめ、中納治久教授（歯学部歯科矯正学講座）、岡田寛之助教（東京大学大学院医学系研究科疾患生命工学センター臨床医工学部門）、坂井信裕教授（歯学部歯学教育学講座）、金英寛助教（京都大学医生物学研究所生命システム研究部門）に深く感謝申し上げます。



澁坂和大助教

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS（昭和医科大学新聞）  
第628号（令和7年12月発行）

## 唾液腺再生医療の研究で 歯科基礎医学会ライオン学術賞を受賞

田中準一准教授（歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）が、歯科基礎医学会が設ける第25回（2025年度）歯科基礎医学会ライオン学術賞に選定され、第67回歯科基礎医学会学術大会（9月5日～7日：北九州国際会議場）にて受賞講演および授賞式が行われました。

同賞は歯科基礎医学分野において、国際レベルの卓越した研究成果を挙げ、歯科医学の発展・進歩に多大に寄与した学会員の功績を称えるものです。毎年2名までの歯科基礎医学研究者が選定され、今年度は田中準一准教授1名が受賞しました。

### 【田中準一准教授のコメント】

この度は大変栄誉ある賞を賜り、光栄に存じます。本受賞内容は「幹細胞を基軸とした唾液腺再生医療の開発」というもので、大学院時代から継続して行ってきた研究内容です。幹細胞から唾液腺を作出するというチャレンジングな研究でありましたが、美島健二教授（歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門）のご指導ならびに学内学外の多くの先生方のご助言や共同研究により、このような評価をいただけるような研究に発展したことを大変嬉しく思います。今回の受賞にあたっても多くの方からお祝いの言葉とともに今後の発展について激励の言葉をいただきました。

幹細胞を用いた唾液腺再生医療の臨床応用には多くの課題の解決が必要ではありますが、今回の受賞を励みに、今後とも研究に精進し社会貢献できればと考えております。



左から 大島勇人教授（歯科基礎医学会理事長）、  
田中準一准教授、栗田啓所長（ライオン株式会社）

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS（昭和医科大学新聞）  
第629号（令和8年2月発行）

## ■ 日本大学歯学部 ■

### 歯学体を終えて

歯学体正評議員 田中 協大



今年度の「全日本歯学学生総合体育大会」において、日本大学歯学部は総合優勝を果たすことができました。これまでに積み重ねてきた9回の総合優勝、12回の準優勝という歴史に、新たに輝かしい1勝を加えることができたのは、選手一人一人の努力とチーム全体の団結の賜物です。各部活動が日頃から学業とクラブ活動を両立させながら、互いに励まし合い、練習に取り組んできた成果が、今大会で存分に発揮されました。競技の勝敗を超えて、仲間を信じ支え合う姿勢、最後まで諦めない気持ちこそが、本学の強さだと感じています。また、この優勝は選手や部員だけでなく、日々支えてくださった先生方、保護者の皆さま、そして応援してくださった先輩方のお力添えがあってこそ成し得たものです。今回の経験は、喜びや達成感、苦しい場面を乗り越えた自信として、これからの人生や臨床の現場でも必ず生きてくることでしょう。この優勝を胸に、次の目標へ向けて、共に新たな挑戦を重ねていきましょう。(第5学年)



桜歯ニュース 第228号 (令和7年10月発行)

## ■ 日本大学松戸歯学部 ■

### オープンユニバーシティに出展しました

日本大学全ての16学部・86学科、通信教育部、短期大学部が一堂に会する「日本大学オープンユニバーシティ」が令和7年11月23日(日・祝)に初開催されました。

松戸歯学部は、歯のストラップを作成できるミニ体験ブースを本学部5年次生2名に協力いただき出展しました。



小峯教授による学部説明



5年次生による歯のストラップ作り体験

松戸歯ニュース 第191号 (令和8年1月発行)

## ■ 日本歯科大学生命歯学部 ■

### 中原貴教授(東京再生)受賞 Springer Nature社の「卓越編集者賞」

中原貴教授(生命歯学部発生・再生医科学講座)は5月29日、Springer Nature社より、「Editor of Distinction Awards 2025(卓越編集者賞2025)」を受賞した。

受賞は、「Human Cell」と「Odontology」両誌の編集者としての貢献が認められたもの。

日本歯科大学新聞 第698号 (令和7年6月発行)

### 柵木准教授 受賞

生命歯学部接着歯科学講座の柵木寿男准教授は、11月30日の第42回日本接着歯学会学術大会において、ポスター発表演題「多用途オールインワンアドヒーズシステムによる象牙質レジンコーティング応用時の被膜厚さ」で、発表優秀賞を受賞した。

日本歯科大学新聞 第699号 (令和7年8月発行)

## 古木院生も受賞

大学院生命歯学研究科接着歯学科の古木健輔大学院生は、11月30日の第42回日本接着歯学会学術大会において、口頭発表演題「新規薄膜オールインワンユニバーサルアドヒーズシステムの歯頸部齲蝕罹患象牙質に対する量的質的接着評価」で、発表優秀賞を受賞した。

日本歯科大学新聞 第699号（令和7年8月発行）

た」、「将来こちらの大学に学生としてお世話になりたいそうです」などの感想が寄せられ、大盛況であった。

今回のイベントは、広報部会の教職員が中心となって企画し、新潟生命歯学部と新潟短期大学の教職員、新潟生命歯学研究科の大学院生および新潟短大歯科衛生学専攻の専攻科生の協力を得て開催に至った。

（新潟生命歯学部広報部会）

日本歯科大学新聞 第699号（令和7年8月発行）

## ■ 日本歯科大学新潟生命歯学部 ■

### ハノシゴトフェスティバル新潟 - 小・中・高校生等 249人が参加 -

新潟生命歯学部と新潟短期大学の共催イベント「ハノシゴトフェスティバル2025～ハノシゴトに潜入せよ！～」が、7月13日に新潟キャンパスにおいて実施された。

歯やお口に関する仕事について、広く知ってもらいたいという目的で、新潟県内外の小学生・中学生・高校生を対象として、112組249人という多くの方に参加いただいた。今年度は京都や栃木といった遠方からの参加もあった。

副題である「ハノシゴトに潜入せよ」のもと、ミッション①歯の模型をピカピカにしよう！（はみがき体験実習）、②ハノシゴトの病院に潜入調査！（病院ツアー）、③歯のキーホルダーを作ろう！（キーホルダー製作）の3つの企画をミッション（体験実習）として実施した。

その他にも、医の博物館ミュージアムツアー、フォトスポット、ハノセカイの道具展示ブース、はみがきワールド、スタンプラリーによる景品交換など、小学生から高校生まで楽しく学んでもらえるようなプログラムを用意した。

参加者からは「去年とちがう体験ができて楽しく学べました！」、「子どもの将来の進路選択の参考になりました」



## 『Odontology』25年目に - 新編集長に前田健康客員教授 -

本学の「Odontology」は、2001年に邦文誌「歯学」から英文誌となった。2017年から年4号の発刊となった。本年度で刊行25年目となり、わが国歯科大学・歯学部で唯一の英文誌であり、名実ともに国際的な学術誌として高い評価をうけている。

編集長は、筒井健機教授、土持眞教授、新海航一教授、そして本年4月より前田健康客員教授（前新潟大学歯学部長）に引き継がれている。

昨年2024年の総投稿数は、内外846稿に達し、同年の採択率は18%強となる。

最新号の本年7月発刊の第113巻3号は、448ページの大冊で、レビュー論文5編、オリジナル論文41編にのぼる。

日本歯科大学新聞 第700号（令和7年10月発行）

## 「世界平和」学生論文コンクール 優秀賞受賞

「世界平和」をテーマとした学生論文コンクールにおいて、本学新潟生命歯学部の1年の土屋晶さんが優秀賞に選ばれた。

同コンクールは、「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」（新潟市）が、新潟県内在住の学生を対象に主催する。同会は1996年から、ネパールやカンボジア、ミャンマーなど各国の発展途上地域に、小学校や診療所を寄贈する取り組みをつづけている。

表彰式は9月6日、新潟市の新潟日報メディアシップで行われ、土屋さんは「世界平和のために私ができること」と題する受賞のスピーチをした。

「私は、健康が平和を築くうえで不可欠な要素だと考えている。その中でも、歯科医療が担う割合は小さくない。歯学医療は全身の健康や生活の質に直結し、人々の笑顔と安心に貢献できる。

現在、私は歯科医師を目指し、大学で学んでいる。そ

んな私にとって「世界平和に貢献する」ということは決して遠い話ではなく、日々何ができるかを問い、行動していくことだと思っている。たとえ小さなことであっても、人の痛みを和らげ笑顔を増やす力になりたい。それが、平和な世界をつくることにつながるはずだ。

世界を変えるのは、決して特別な人だけではない、と私は思う。私のような一学生でも、自分の目の前にいる誰かの健康と笑顔のためにできることがある。そしてその積み重ねが、やがて世界のどこかに起きている痛みを和らげ、争いのない社会をつくる一歩になると私は信じている。」(要旨)



日本歯科大学新聞 第700号 (令和7年10月発行)

## ■ 神奈川歯科大学 ■

### 探求する中高生の学会 「KDU STEAM FORUM 2025」開催

2025年8月20日(水)、「KDU STEAM FORUM 2025」を開催しました。このフォーラムは、中・高校生による課題探究や研究活動の発表・交流の場を提供することを目的として、本学および本学学会の共催により、今回初めて開催されたものです。

約100名の皆様にご参加いただき、中高生による22演題のポスター発表、榎木恵一教授による基調講演、校内見学のエクスカーションなど多彩なプログラムが展開されました。ポスター発表では活発な質疑応答や交流が行われ、新たな学びや気づきが生まれる貴重な機会となりました。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第54号 (令和8年1月発行)

### 横須賀地域研究等連絡協議会 公開研究フォーラム

2025年12月1日(月)に横須賀商工会議所において開催された横須賀地域研究等連絡協議会 公開研究フォーラムにおいて、教育学分野の板宮朋基教授が「バーチャル技術は命を救うー医療と防災への応用ー」のタイトルで講演を行いました。この協議会には本学をはじめ海洋研究開発機構(JAMSTEC)や防衛大学校に加えてNTTや日産自動車などの企業も含めた19の研究機関が参加しています。各機関のポスター展示も行われ、本学は裸眼立体視ディスプレイを用いた高精細3D-CT立体モデルを展示し、好評を得ました。今後、防衛大学校等との交流が予定されています。



学校法人神奈川歯科大学新聞 第54号 (令和8年1月発行)

### 未来の夢が芽吹いた一日 ～キッズジョブよこすか2025開催～

2025年11月23日(日)、横須賀市PTA協議会主催の「キッズジョブヨコスカ2025」が本学で開催されました。横須賀市内の小学校高学年から中学生を対象に、“ホンモノのしごとを体験しよう!”をテーマに、約40の企業・団体が参加。自動車メーカー、プロサッカーチーム、消防士、銀行、税務署、大工など、多彩な職業体験が並び、地域一丸となって子供たちの成長を応援するイベントとなりました。本学からは、歯科医療・歯科衛生士・看護師・歯科技工士の4つの職業体験ブースを出展。インフルエンザの影響で参加者は当初の予定よりやや減少しましたが、来場した子供たちは目を輝かせながら体験に挑戦していました。初めて触れる器具に驚き、真剣に説明を聞き、仲間と笑い合いながら挑戦する姿は、まさに未来への希望そのもの。体験を終えた子供たちからは「楽しかった!」「もっとやってみたい!」といった声があり、満面の笑顔が会場いっぱいに広がりました。



子供たちの笑顔が未来を照らすー本学はその夢を応援し続けます。

学校法人神奈川歯科大学新聞 第54号 (令和8年1月発行)

## ■鶴見大学歯学部■

### 第38回 一般社団法人日本顎関節学会 総会・学術大会での表彰について

7月12日(土)～13日(日)に開催された第38回一般社団法人日本顎関節学会総会・学術大会(学術総合センター 一橋講堂)にて、小林 馨名誉教授、伊東宏和助教が表彰台上がりました。

小林先生は顎関節学会に学術的および学会運営に対して、長きに渡り貢献をされ学会の進歩発展に指導的役割を果たした功績が認められ、名誉会員になりました。

伊東先生は今年度から始まりました、口演発表優秀賞(臨床系)を「咀嚼筋膜。腱膜過形成症群におけるCT画像所見に関する検討-第三報-」で受賞しました。

(歯学部口腔顎顔面放射線・画像診断学講座教授  
五十嵐 千浪 記)



(左)理事長・大会長 小見山道 教授  
(右)小林馨 名誉会員



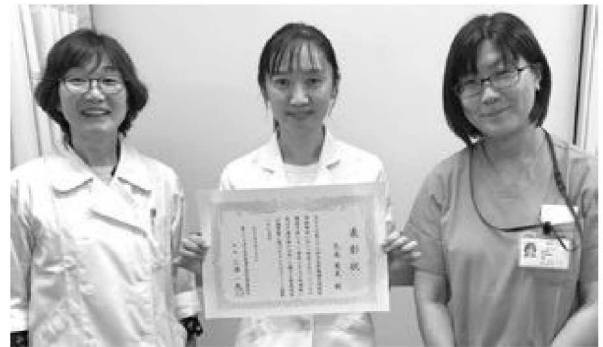
(左)伊藤宏和 助教 (右)小見山 教授

鶴見大学報 第452号(令和7年10月発行)

### 矢島愛美 助教 日本疼痛漢方研究会 優秀賞を受賞

歯科麻酔学講座 矢島愛美助教が、7月26日(土)に東京コンファレンスセンター・品川で開催された、日本疼痛漢方研究会学術集会において優秀賞を受賞した。

本学術集会の大会長は、当講座の三浦一恵臨床教授であった。また、本賞は学術集会内で行われた優秀賞ノミネート講演の中で、最も優れた発表に贈られる。演題は、「マウス口唇部炎症によって誘発される下肢過敏に及ぼす漢方薬の作用」であり、口唇部へのホルマリン皮下投与したマウスの下肢過敏の状態が、漢方薬の抑肝散によって緩和されることを講演したものである。本研究結果はこれまで治療に難渋してきた痛覚変調性疼痛への新たな治療薬の選択肢としての可能性を示している。矢島愛美助教の受賞を讃えとともに、一層の研鑽とご活躍を祈念する。  
(歯科麻酔学講座教授 阿部 佳子 記)



左から 三浦一恵臨床教授、矢島愛美助教、阿部佳子

鶴見大学報 第452号(令和7年10月発行)

### 解剖献体精霊供養法会を厳修

令和7年10月3日(金)午後1時30分から大本山總持寺大祖堂において、大本山總持寺 猊下 石附周行老師ご導師のもと、令和7年度歯学部解剖献体精霊供養法会が厳修された。



法要の様子

## 次第

七下鐘大導師上殿  
 開式の辞  
 前鼓鉦三通  
 献香献花 三帰依の歌  
 ご供養の言葉 学長  
 拈香法語  
 読経 参列者全員焼香  
 回向  
 後鼓鉦三通  
 大導師猊下御垂示  
 感謝の言葉 代表学生  
 大導師退堂  
 閉式の辞

鶴見大学報 第453号(令和8年1月発行)

## 遠藤美紀 臨床助手 第25回日本歯科医学学会学術大会ポスター賞(分科会大学院生部門)を受賞

2025年9月26日(金)～28日(日)にパシフィコ横浜で開催された第25回日本歯科医学学会学術大会にて本学歯学部口腔内科学講座の遠藤美紀臨床助手がポスター賞(分科会大学院生部門)を受賞し、表彰された。対象となった発表は「モバイル型qPCR装置による各種ウイルス感染症迅速診断法の確立」であり、経験的に行われてきたウイルス感染症の臨床診断に対し、モバイル型qPCR装置を用いることで20～30分という短時間での正確な迅速診断を可能とした。その検出結果は従来のベンチトップ型qPCR装置を用いた結果と同等の精度を有しており、さらに抗原検査と比較して高い感度を示すことが明らかとなった。また、本法はウイルスに罹患した患者の診療後に生じうる環境汚染の有無を検出できる点でも優れており、医療従事者の感染リスクを低減できる点が高く評価された。さらに、早期診断によりウイルス感染症に伴う継発症や随伴症の発症を抑制し、患者のQOL低下を防ぐことにもつながることが期待される。

(口腔内科学講座教授 里村 一人 記)



表彰の様子

鶴見大学報 第453号(令和8年1月発行)

## ■松本歯科大学■

### 第46回日本歯内療法学会学術大会・第23回日韓合同歯内療法学会学術大会

## 「歯内療法の更なる飛躍 —世界のPeakを目指して—」をテーマに開催

### 歯科保存学講座・増田宜子教授を大会長に 全国各地から学会員ら約600人が参加

第46回日本歯内療法学会学術大会・第23回日韓合同歯内療法学会学術大会(大会長=歯科保存学講座・増田宜子教授)が7月19日(土)、20日(日)、本学で開催された。超高齢化社会のいま、口腔機能の維持や健康寿命の延伸に寄与する歯内療法への関心は一段と高まっており、今大会にも全国からおよそ600人が集まって知見に触れ、学び、活発に情報交換した。初日の特別講演には宇田川信之学長も登壇。歯槽骨吸収に関与する破骨細胞に焦点を当てた講演に高い関心が寄せられた。

大会は「歯内療法の更なる飛躍 —世界のPeakを目指して—」をテーマに、専門医特別講習会や一般口演、特別講演、倫理講習会、テーブルクリニック、ポスター展示、企業展示など、最新の研究成果や情報に接することができる幅広い内容で展開した。開会式で大会長の増田教授は大会テーマと関連させ「ここから穂高連峰の3千メートル級の山々をご覧いただき、皆さまが目指す“ピーク”のイメージとしてほしい」とあいさつした。

主会場の本館7階講堂では、両日とも充実した内容の講演や講習会が次々と行われ、多くの人が多彩な内容のプログラムを熱心に聴講していた。特別講演では、大阪大学副学長・大学院教授の林美加子先生が歯髄保護の最先端を、UCLA歯学部歯内療法学科のInsoon Chang(インスーン・チャン)先生が最新の歯髄再生治療についてご講演された。韓国歯内療法学会から18人の参加があり、8人がポスター発表された。招待講演では韓国歯内療法学会を代表してソウル大学歯学部保存学講座のYeon Jee Yoo(ヨンジェ・ユ)先生が遺伝子レベルでの再生治療についてご講演された。歯内療法学会の目玉であるテーブルクリニックは、講師が小ブースで臨床セミナーを開き、来場者が聴講し、直接質問できるという貴重な機会で大いに盛り上がった。

今回初めての試みで歯科衛生士に向けて、特別に教育講演も行われた。子供と一緒に受講できるサテライト会場を用意し、ポスター会場も子供と一緒に入場できるようにし好評だった。

懇親会は初日、学生ラウンジで行い、県歯科医師会の齋藤彦次郎副会長や、塩筑歯科医師会の滝克尚会長、韓国歯内療法学会から会長でソウル大学の WooCheol Lee (ウチュエル・イ) 教授ほか14人が出席。金銅英二教授の Hammond オルガンの演奏や、元宝ジェンヌで現在は県内で活動する朱紫令真さんの歌謡ショーなどが繰り広げられる中、参加者同士交流を深めた。

次回の学術大会は来年7月11日(土)、12日(日)、福岡市の福岡国際会議場で開催される。



本学講堂で行われた学会総会



座長を務める増田大会長

Campus Today 第499号(令和7年8月発行)

## 第41回 全国歯科大学同窓会・ 校友会学術担当者連絡会を開催

全国29歯科大学・歯学部の学術担当者が情報交換  
— 学術研修のさらなる充実をめざして —

残暑激しい中、8月23日(土)、松本歯科大学図書館学生ホールを会場として、第41回全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会が開催された。本連絡会は、全国29歯科大学・歯学部の同窓会・校友会の学術担当者が一堂に集まり、各大学で開催している学術研修会の開催テーマや方式などについての情報交換を行い、今後の活動に役立てていくことを目的として開催されているものである。

全国歯科大学同窓会・校友会学術担当者連絡会は、1997年から開催され今回41回を迎えるが、2008年に本学が主管してから17年経過した状況での2度目の主管となった。

来学した先生方の中には、前回の穂高ビューホテルで

の思い出などを語る方もいらっしやった。

総会では、研修会報告書や連絡網の確認などが行われ、今後5年先までの主管校の進捗状況を討議した。

総会の後、基調講演として WHITE CROSS 株式会社代表取締役であり、本学の非常勤講師でもある赤司征大先生より『歯科医療の近未来はどうなるのか?』というタイトルでご講演をいただいた。

赤司先生の講演は、今後、歯科医療は業務と需要の拡大が見込まれる成長産業であり、現在、歯科医師はパイロット、医師に次いで3番目に収入の多い、夢のある職業であるとの正しい情報による見解を示された。その後、シンポジウムとして、4大学の代表者による『学術事業の未来について』というタイトルで、熱い討論が行われた。

懇親会においては、総勢70名以上の参加者が図書館エントランスホールに着席し、フレンチレストラン“雷鳥”および中国料理レストラン“スターダスト”特製の料理を楽しむことができた。参加者からは、本学の中国料理が本場横浜を凌ぐとの絶賛をいただいた。アトラクションとして朱紫令真さん(元宝塚歌劇団星組)による歌謡ショーが行われた。

参加校挨拶は北から順にユーモアを交えて行われ、来年(主管=神奈川歯科大学と鶴見大学歯学部)の再会を誓って閉会となった。

(学長・校友会常務理事 宇田川 信之)



主管校代表として総会の議事進行をする宇田川信之の常務理事(右から二人目)と川原一郎常務理事(右端)



全国から学術担当者が集い満席となった学生ホール

Campus Today 第500号(令和7年9月発行)

## 学生代表団が中国河北省の承德医学院で初の臨床実習

学術から文化まで充実のプログラムで学び  
同志の友情深める

— 歯科医学のさらなる発展をめざして—

第5学年の東本珠佳さん、佐藤瑠海君、久藤維弓那さん、江珮寧さん、廖翎妃さんの5人は8月31日(日)から9月8日(月)までの9日間、本学の学生を代表して、中国河北省の承德医学院で行われた臨床実習プログラムに参加した。本学は2024年1月に承德医学院と学術交流・友好協力協定を締結したばかりで、今回が初めての学生派遣となった。中国側には学術から文化までさまざまなプログラムをご提供いただき、学生たちは充実した日々を過ごした。参加学生を代表して東本さんに貴重な体験を振り返ってもらおう。

今回は私にとって初めての中国訪問であり、文化や言葉の違いに不安もありましたが、研修を通して多くの学びと経験を得ることができました。

初日はホテル到着後、遅い時間にもかかわらず承德医学院の張 学良副党委書記らが温かく出迎えてくださり、歓迎会を開いていただきました。先生方の温かなもてなしにより、安心感に包まれると共に、研修に対する期待が一層高まりました。

2日目は承德医学院の唐 世英党委書記と李 玉紅学長より歓迎セレモニーをしていただきました。その後学院を見学し、広大なキャンパスや整った設備に圧倒されました。学院歴史館では学院の歩みを知り、長い歴史を持つ教育の重みを実感しました。東洋医学館では、日本では学ぶ機会の少ない漢方について説明を受け、組み合わ



承德医学院内で、左から中村歯学部長、第5学年の廖さん、佐藤君、久藤さん、江さん、筆者、楊准教授

せや効能、治療法を学びました。さらにAI診断機も体験し、先進的な技術導入を目の当たりにしました。

3日目から臨床実習が始まり、口腔科・保存科・小児歯科などを見学しました。抜歯やマイクロスコープを用いた根管治療、口腔内スキャナーによる印象採得など幅広い診療を拝見し、臨床実習中の私たちにとって、日本での学びと比較し応用する貴重な機会となりました。

4日目には手術見学をしました。口腔科の名誉主任の霍 峰先生、主任の王 鵬先生が私たちの訪問に合わせ手術を多く組んでくださったおかげで、骨折、耳下腺腫瘍、皮膚移植、3D映像を用いた内視鏡手術など数多くの症例を拝見できました。患者数や手術件数の多さには驚かされ、地域の人口規模や豊富なスタッフ配置による効率的な診療体制を実感しました。また、多くの女性医師が第一線で活躍する姿も印象的で、性別にかかわらず力を発揮できる環境は、自身のキャリア形成を考えるうえで大きな刺激となりました。

文化研修では、避暑山荘や故宮、普寧寺などを訪れました。壮大な庭園や伝統的な建築様式は、中国文明の奥深さを直接感じさせるものでした。万里の長城はあいにくの雨でしたが、晴天とはまた違った趣があり、強く印象に残りました。短期間で数多くの世界遺産を巡ることができたのは先生方のおかげであり、医療研修とともに国際的な視野を広げる機会となりました。また、学生交流も大きな収穫となりました。承德医学院の学生は明るく活発で、バドミントン交流会では言葉の壁を越えて自然に打ち解けることができました。4月に本学へ研修に来ていた学生と再会できたことも大きな喜びでした。異なる地で再び友情を深められたことは、この研修をより特別なものにしてくれました。同じ医療職を志す仲間と交流を重ねられたことは、この研修の価値を一層高めるものとなりました。

最終日には盛大な送別会を催していただきました。羊の丸焼きや、普段は口にできない特別な料理が並び、心のこもったおもてなしに支えられて研修を締めくくることができました。

この研修を通じて、臨床はもちろん文化や交流を通じ国際的な視野を広げることができました。今回の経験は私の人生において忘れられない財産であり、この学びをしっかりと今後活かしていく所存です。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった矢ヶ崎雅理



世界遺産の万里の長城を見学する本学学生ら

事長、宇田川信之学長、引率してくださった中村浩彰歯学部部長、楊 静准教授、そして承德医学院の霍 峰先生、王 鵬先生をはじめとする全ての皆さまに心より感謝申し上げます。  
(第5学年 東本珠佳)

Campus Today 第501号 (令和7年10月発行)

## 第18回 日本総合歯科学会総会・ 学術大会を開催

全国から総合歯科医療に携わる研究者や臨床医が集結

高度で包括的な診療の未来像を共有

「総合歯科の未来展望 — アドバンスな総合診療を目指して —」をテーマとした第18回日本総合歯科学会総会・学術大会が、11月23日(日)と24日(月・振替休日)の2日間にわたり、松本市の中央公民館(Mウイング)にて開催された。本学病院初診室(総合診断科・総合診療科教授)の音琴淳一大会長のもと、全国から総合歯科医療に携わる研究者や臨床医が集結し、現代の複雑な歯科医療ニーズに対応するための、「総合診療」のあり方について、活発な議論が交わされた。

本学会プログラムでは、まず(一社)日本歯科専門医機構の今井 裕理事長による特別講演「歯科専門医における現状と課題」が行われた。今井理事長のご講演は、わが国における歯科専門医制度の確立と将来の展望について、極めて示唆に富む内容であり、参加者一同、大変感銘を受けた。続いて、植田耕一郎先生(医療法人社団光生会 陵南診療所 摂食リハビリステーション嚥下部長)が「理念に基づく21世紀歯科医療の展開」と題してご講演された。

また、教育講演では、木尾哲朗先生(九州歯科大学特任教授・名誉教授)が「総合歯科医が知っておきたい医療のコミュニケーション」をテーマに、興味深い内容の講演を行った。

シンポジウムでは、野田 守先生(岩手医科大学歯学部歯科保存学講座 歯蝕治療学分野教授)と本学の今井美恵教授(地域連携歯科学講座)がシンポジストとして登壇し、活発な質疑応答が交わされた。本学からも多数の演題発表があり、特に若手優秀ポスター発表では、保存科の杉野凜太郎診療助手の演題「全顎的骨吸収のある患者に対し全部床義歯を装着し、機能回復した症例 — 聴覚障害を有する研修歯科医の治療実践 —」が注目を集めていた。

音琴大会長は大会のテーマ通り、総合歯科が目指すべき高度で包括的な診療の未来像を共有でき、地域の歯科医療の質向上に貢献する実りある2日間だったと総括し

た。大会準備委員長を務めた病院初診室の大木絵美講師の尽力にあらためて感謝したい。

参加者は、信州の豊かな自然と歴史的な街並みを持つ松本での交流を深めつつ、知識と技術の研鑽に励んだ。

(第18回日本総合歯科学会総会・学術大会実行委員長 病院初診室 特任教授 内田 啓一)



講演された日本歯科専門医機構の今井理事長(左)と音琴大会長



講演する今井教授

Campus Today 第503号 (令和7年12月発行)

## ■ 朝日大学歯学部 ■

### 二階堂教授が基調講演及び表彰 スリランカ修復歯科専門医協会学術大会

2025年7月18日(金)及び19日(土)、スリランカ・コロンボにおいて、「第13回スリランカ修復歯科専門医



表彰状を手にする二階堂教授(写真左)

協会学術大会」が開催され、本学の二階堂徹教授が基調講演を行いました。講演テーマは「コンポジットレジン修復における最新の接着材料と技術」で、接着歯学の最前線について講演しました。

また、開会式では、接着歯学分野における国際的な功績が評価され、二階堂教授が表彰されました。

ASAHI UNIVERSITY NEWS LETTER 第160号  
(令和7年11月発行)

## ■ 愛知学院大学歯学部 ■

### 藤田医科大学にて合同 IPE (Interprofessional Education 多職 種連携教育) が開催されました

6月4日(水)、13日(金)、20日(金)の3日間にわたり、藤田医科大学において「アセンブリ III (\*藤田医科大学における3年生以上で受ける多職種連携教育の呼称)」が開催され、本学歯学部3年生、健康科学部健康栄養学科4年生が参加しました。

このアセンブリ III には、藤田医科大学医学部3年生、医療科学部3年生(医療検査学科(臨床検査、臨床工学)・放射線学科)、保健衛生学部3年生(看護学科・リハビリテーション学科(理学療法、作業療法))、日本福祉大学社会福祉学部3・4年生、名城大学薬学部4年生も参加し、その学生総数は1,026名で、全国的に見ても大規模な合同講義となっています。

本年度のテーマは、昨年に引き続き「被災住民に対する支援 — 医療・福祉系の私たちに何ができるか?」で、南海トラフ地震発生後の豊明市内の避難所を想定したシナリオに基づき、災害発生直後から1か月後までの被災者支援について、学生たちは多職種混成のグループで議論を行いました。各グループでは、医療・福祉・薬学・栄養などの専門性を活かしながら、避難所での生活支援や健康管理、心のケア、情報共有の方法など、現場



で求められる支援の在り方について意見を出し合い、改善・解決策を検討しました。

参加学生からは、「他学部・他大学の学生と協働することで、自分の専門職の役割を再認識できた」「被災者の視点に立って考えることの大切さを実感した」といった声が多く寄せられました。

また、教員からも「学生たちが真剣に議論し、実践的な視点を持って取り組む姿に成長を感じた」との評価があり、教育的にも大きな成果を上げる機会となりました。



愛知学院大学歯学部ホームページ (令和7年7月掲載)

### 医療系学科1年生合同の IPE (Interprofessional Education 多職種連携教育) が開催されました

愛知学院大学は大規模総合大学であるとともに医療系学部学科を多く持つことが特色です。

6月6日(金)、歯学部・薬学部・健康科学部(健康栄養学科)・短期大学部(歯科衛生学科)の1年生を対象に、初めての多職種連携教育(IPE)プログラムを実施しました。異なる背景を持った学生と初めて出会う中で、調和したグループワークを行うプロセスを体験してもらうことを目的としています。

4学科混成の5~6名のグループに分かれ、糖尿病をテーマとしたシナリオをもとに、グループ討論・プロダ



クトシートの作成・プレゼンテーションを行いました。健康に関する日常会話を題材に、各分野の視点から意見を出し合い、口腔に強みを持つ本学ならではの視点も多く見られました。

1年次から専門職としての意識を育むこの授業は、将来医療の現場で活躍するプロフェッショナルを目指す学生にとって、非常に有意義な学びの機会となっています。本学では、このような取り組みを通じて、医療の未来に貢献する人材の育成を目指しています。



愛知学院大学ホームページ（令和7年7月掲載）

## 末盛キャンパス 歯学部臨床教育研究棟 第4回なごやグッドグリーン賞 大賞受賞

「愛知学院大学 末盛キャンパス 歯学部臨床教育研究棟」（名古屋市千種区）は、第4回「なごやグッドグリーン賞 大賞」を受賞いたしました。

「なごやグッドグリーン賞」は、名古屋市内の民有地の優良な緑化事例を顕彰しPRすることにより、民有地緑化の普及・促進や質の向上を図ることを目的で平成27年度に第1回が実施されました。この度、2023年10月に竣工した「歯学部臨床教育研究棟」が、周辺環境との調和と共生をめざした点が評価され全部門を通じた最優秀作品として第4回受賞作の大賞に選ばれました。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和7年11月掲載）

## 歯学部附属病院の「北館 落成式」 が行われました

12月3日(水)に歯学部附属病院の「北館 落成式」が行われました。来賓には、名古屋市長広沢一郎氏もお越しになりご祝辞を賜りました。

愛知学院大学では、創立150周年記念事業として歯学部附属病院に新しい「北館」を建設し、2026年1月より運用開始を予定しております。

北館の開設により、医科診察部門を大幅に拡充し、従来から強みとしてきた医科歯科連携をさらに強化。地域医療の質向上と先進的な医療の促進を目指します。

当院の強みは難治性歯周病に対し、人工骨・自家骨移植を併用した再生医療の実施や、歯科・内科・放射線科の専門医によるカンファレンスで最適なインプラント治療方針の決定ができることです。

また糖尿病と歯周病の関連に着目し、同一施設内で検査・治療が受けられる体制を構築しております。

「患者一人ひとりに寄り添い、安心・安全な医療を提供する」こと理念に、これからも中部地区を代表する医科歯科医院として地域に貢献してまいります。



愛知学院大学歯学部ホームページ（令和7年12月掲載）

## ■大阪歯科大学■

### 川添堯彬学長が理事長に再任、 盛山正仁前文部科学大臣が理事に 就任されました

学校法人大阪歯科大学は6月26日、新役員による理事会を開き、川添堯彬学長を理事長に選定いたしました。理事長の任期は、2025（令和7）年6月26日から2027（令和9）年9月30日までです。また6月26日から、本法人役員は新体制となり、盛山正仁前文部科学大臣が同日付で理事に就任されました。



川添 堯彬 理事長 盛山 正仁 先生

大阪歯科大学ホームページ（令和7年7月掲載）

### 歯学部卒業生がアメリカ歯科医師 国家試験に合格！

大阪歯科大学歯学部を卒業した伊東嶺真子さん（2020年卒業）は、大阪歯科大学附属病院で1年間の研修を終えた後、アメリカで歯科医師になるために単身渡米。コロナ禍での語学留学、病院でのインターン、クリニックでの歯科助手などを経て、2025年3月、見事アメリカ歯科医師国家試験に合格しました。現在、アメリカで研修医になるため準備を進めている伊東さんにお話を伺いました。



取材に答える伊東さん

#### アメリカで歯科医師になるために

アメリカで歯科医師になる道は、遠く険しい。けれども、「正しい情報と戦略、そして忍耐力があれば決して不可能ではありません」。アメリカ歯科医師国家試験に見事一発で合格した経験から、その「戦略」と、そして研修医プログラム参加に向けた準備を通して感じた「現実」について、次のように話してくれました。

#### 渡米を考えている学生さんへ

「アメリカで歯科医師になることは、決して簡単な道ではありません。英語の壁、文化の違い、情報の少なさ、孤独など。これらすべてが『普通ではない環境』の連続です。でも、『やってみよう』『いつか海外で歯科医療に関わりたい』という想いや気持ちは、何より大事にしてほしいです。私自身、パンデミックの最中でしたが『今、行かないと一生行かないかもしれない』と思い、思い切って渡米しました。周りに相談できる先輩もいない中で、今も毎日が試行錯誤です。日本でのキャリアを捨てリスクを取りましたが、それでも、あの時の決断は間違っていなかったと思います。また、海外で活躍することだけがすべてではありません。自分の選択に責任を持ち、自分で道を作る覚悟があるなら、どこにいても歯科医師として輝けると思っています。失敗したっていいんです。大切なのはそこから何を学び、どう立ち上がるかです。自分を信じて諦めずに努力すれば、少しずつ夢は現実になっていくと私は確信しています。Never surrender!」。

大阪歯科大学ホームページ（令和7年8月掲載）

### SCRP 日本大会“第3位”入賞！

#### 楠葉キャンパスで表彰楯授与式を行いました

全国の歯学部学生が研究成果やプレゼンテーション能力を競う令和7年度の「スチューデント・クリニシャン・リサーチ・プログラム（SCRP）日本代表選抜大会」（主催：公益社団法人日本歯科医師会）において、大阪歯科大学歯学部3年の足立梨夏さんが第3位に入賞し、10月8日、表彰楯授与式を楠葉キャンパスで行いました。

第31回となる今大会には全国18大学が参加し、8月5日に東京・歯科医師会館で英語による発表と質疑応答の審査が実施されました。本学としては3年ぶり8回目の上位入賞となります。（優勝：東北大6年生、準優勝：鶴見大5年生）

受賞した研究テーマは「タンパク質含有マイクロ粒子による口腔がん細胞株へのタンパク質の直接送達」。機能保存が重視される口腔がん治療において、がん細胞内

へ治療用タンパク質を直接送達する方法が近年注目されていますが、従来の遺伝子導入法だと変異リスクや効果発現までのタイムラグが課題でした。そこで足立さんたちはがん細胞で亢進している細胞内取り込み経路であるマクロピノサイトーシスに着目しました。タンパク質含有マイクロ粒子 (Protein-MPs) を作成し、これが口腔がん細胞株に取り込まれるかどうかを検証しました。その結果、Protein-MPs を用いることで様々な口腔がん細胞の細胞質に効率よくタンパク質を直接送達できることを明らかにしました。さらに、タンパク質の電荷や分子量にかかわらず細胞質に送達できることを見出したのです。今回の研究は、代表研究者の足立さんと共同研究者の延藤 和樹さん (歯学部4年) が、ファカルティーアドバイザーを務めた化学教室の牧田佳真准教授、生物学教室の平井悠哉講師の指導のもと、チームで取り組んだものです。

表彰式では、延藤さん、牧田准教授、平井講師や化学教室の藤原主任教授が見守る中、川添堯彬理事長・学長から足立さんに表彰楯が手渡されました。

川添理事長・学長は「『素晴らしい』の一言に尽きません。今回の受賞は本学にとっても名誉であり、足立さんにとっても一生の思い出になるでしょう」と称えました。



左から 牧田准教授、藤原主任教授、足立さん、平井講師、延藤さん

大阪歯科大学ホームページ (令和7年10月掲載)

## 枚方市総合防災訓練 枚方ひこ防'z 2025 に出展しました

大阪歯科大学は11月22日、鈴木夏奈子講師ら看護学部教員が中心となり\*、「枚方ひこ防'z 2025」の防災イベントに参加しました。市役所大ホール前広場で開かれたこのイベントには大学や企業、自治体等17団体が出展。本学は「災害時にも命を守る口腔ケア ~ケア方法と備えのポイント~」をテーマに、日々のお口のお手入れと災

害時の口腔ケアの重要性をパネルや動画で紹介し、啓発資料の配布等を行いました。

そのなかで、特に人気を集めたのが、水が使えなくてもできる口腔ケア体験コーナー。口腔ウェットシートや飲み込んでも安全な歯磨き口腔ケア製品 (提供: (公社)大阪府歯科医師会) を初めて知ったという来場者も多く、「買ってみたい」「体験できて良かった」「防災グッズに入れよう」などの声がかここで聞かれました。日本歯科医師会PRキャラクター「よ坊さん」も応援に駆けつけた本学のブースには、最後までひと足が絶えず賑わいを見せていました。

普段の啓発活動では集客の難しい30~40代の働き世代・子育て世代にもアプローチでき有意義だったと、今回の出展を振り返った鈴木先生。今後は「災害時の口腔ケア」を課題とする枚方市との更なる連携活動を目指しています。

\*そのほか、この防災イベントに携わった本学教員は次のとおりです。

【看護学部】 聲高英代講師、上野寿子助教、丸本紗奈江助教、宮本圭子助教、藤岡真理助手

【医療イノベーション研究推進機構 (TRIMI)】

山本景一専任教授



大阪歯科大学ホームページ (令和7年12月掲載)

## 福岡歯科大学

### 福岡歯科大学・福岡医療短期大学 新本館完成記念式典、内覧会および 祝賀会を挙

福岡歯科大学・福岡医療短期大学の新本館完成を記念し、2025年7月27日に新本館完成記念式典、内覧会および祝賀会を挙

行しました。50周年記念講堂で開催された式典では、行政や自治体、同窓生および連携大学の関係者等にご列席いただきました。水田祥代理事長は、学園創設から今日に至るまでのご支援・ご協力に感謝の意を述べるとともに、『本学は、建学の精神にある「教養と良識を備えた有能な医療人を育成すること」を目的とするとともに、本学のモットーである「口腔の健康から全身の健康を守る」という

「口腔医学」の理念を最大限に発揮できる教育機関としてこれからも努力してまいります」と決意を述べました。



新本館完成記念式典



福岡歯科大学・福岡医療短期大学 新本館

福岡学園広報誌 Vol.33 No.4 (第128号) (令和7年10月掲載)

## 「歯と口の健康のつどい」で 口腔がん検診を実施

2025年6月7日、「歯と口の健康週間」の啓発イベントの一環としてお口と全身の健康に関する催し「歯と口の健康のつどい」が伊都文化会館（糸島市）で開催されました。福岡歯科大学からは、平木昭光教授（口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野）と橋本憲一郎准教授（口腔・顎顔面外科学講座 口腔腫瘍学分野）が参加し、81名の方々の口腔がん検診を実施しました。



歯と口の健康のつどい

福岡学園広報誌 Vol.33 No.3 (第127号) (令和7年7月掲載)

## 上海交通大学口腔医学院学生訪問団 が来学

2025年7月7日から11日まで上海交通大学口腔医学院の学生6名と教員1名が福岡歯科大学を訪れました。



対面式

7月7日には対面式が行われ、和やかな雰囲気の中、水田理事長や高橋歯科大学長、上海交通大学口腔医学院のLiu Jian nan 教授からの挨拶が行われました。



病院見学

訪問した学生6名は、滞在期間中、医科歯科総合病院の関連各科での実習やアニマルセンターの見学を行ったほか、福岡、博多の歴史や文化を学びました。

福岡学園広報誌 Vol.33 No.4 (第128号) (令和7年10月掲載)

## 口腔医学研究センターシンポジウム を開催

2025年12月8日、福岡歯科大学において「口腔医学研究センターシンポジウム2025」が開催されました。「新装なった口腔医学研究センターでは今」をテーマとして、口腔医学研究センター長の平田雅人客員教授の挨拶に続き新本館に設置している口腔医学研究センター1～5ならびに別棟の研究棟にあるセンターの計6センターに所属する教員（代表）からそれぞれのセンターに設置の設備の紹介と先駆的な研究発表が行われました。参加者は各講演について興味深い様子で聞き入っており、活発な質疑応答や意見交換が交わされました。



シンポジウムの様子

福岡学園広報誌 Vol.34 No.1 (第129号) (令和8年1月掲載)

## 協会役員・部会・委員会名簿

## 一般社団法人 日本私立歯科大学協会役員名簿

役職名	氏名	所属大学および役職名
会長	羽村 章	日本歯科大学生命歯学部特任教授
副会長	藤井 一維	日本歯科大学学長
副会長	櫻井 孝	神奈川歯科大学学長
副会長	宮田 淳	明海大学理事長
専務理事	宇田川 信之	松本歯科大学学長
常務理事	高橋 裕	福岡歯科大学学長
常務理事	福本 雅彦	日本大学松戸歯学部長
常務理事	本田 雅規	愛知学院大学歯学部長
常務理事	小林 琢也	岩手医科大学歯学部長
理事	川添 堯彬	大阪歯科大学理事長・学長
理事	大友 克之	朝日大学学長
理事	古市 保志	北海道医療大学歯学部長
理事	馬場 一美	昭和医科大学歯学部長
理事	飯沼 利光	日本大学歯学部長
理事	瀬川 洋	奥羽大学歯学部長
理事	山本 雄嗣	鶴見大学歯学部長
理事	片倉 朗	東京歯科大学学長
監事	牧村 正治	日本大学名誉教授
監事	高橋 偉茂	朝日大学内部監査室長

(R8.3.31 現在)

## 教育・研究部会

部会長：小林 琢也  
日本私立歯科大学協会常務理事  
岩手医科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
武本真治	岩手医科大学歯学部教務委員長
高田訓	奥羽大学歯学部教務委員長
日比野靖	明海大学歯学部教務部長
阿部伸一	東京歯科大学大学院研究科長
馬場一美	昭和医科大学歯学部長
林誠	日本大学歯学部学務担当
平塚浩一	日本大学松戸歯学部学務担当
菊池憲一郎	日本歯科大学生命歯学部長
藤井一維	日本歯科大学学長
槻木恵一	神奈川歯科大学副学長
山越康雄	鶴見大学歯学部教務・学生部長
宇田川信之	松本歯科大学学長
玉置幸道	朝日大学歯学部長
本田雅規	愛知学院大学歯学部長
田中昭男	大阪歯科大学常務理事・副学長・歯学部長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R8.3.31 現在)

## 病院部会

部会長：高橋 裕  
日本私立歯科大学協会常務理事  
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
山下徹郎	北海道医療大学病院病院長
山田浩之	岩手医科大学附属丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木史彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬敏志	明海大学歯学部病院長
田口円裕	東京歯科大学水道橋病院長
横宏太郎	昭和医科大学歯科病院長
佐藤秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
内田貴之	日本大学松戸歯学部付属病院長
小林隆太郎	日本歯科大学附属病院長
戸谷収二	日本歯科大学新潟病院長
井野智	神奈川歯科大学附属病院長
濱田良樹	鶴見大学歯学部附属病院長
樋口大輔	松本歯科大学病院長
辰巳順一	朝日大学医科歯科医療センター長
三谷章雄	愛知学院大学歯学部附属病院長
中嶋正博	大阪歯科大学理事・附属病院長
都築尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R8.3.31 現在)

## 経営部会

部会長：宮田 淳  
日本私立歯科大学協会副会長  
明海大学・朝日大学理事長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
山本和博	岩手医科大学事務局長
福井和徳	奥羽大学事務局長
竹部正樹	明海大学事務局長
加藤靖明	東京歯科大学千葉歯科医療センター参与
石崎兼司	昭和医科大学学事部長
井上由大	日本大学歯学部事務局長
谷龍樹	日本大学松戸歯学部事務局長
北見公一	日本歯科大学経理部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
菅原光則	神奈川歯科大学法人事務局長
竹内康治	鶴見大学事務局長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
田中聡	朝日大学事務局長
加藤善樹	愛知学院大学歯学部事務部長
中尾昌彦	大阪歯科大学経理部長
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R8.3.31 現在)

## 広報委員会

委員長：福本 雅彦  
日本私立歯科大学協会常務理事  
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
福井和徳	奥羽大学企画・広報課長
前田洋佑	明海大学歯学部庶務課長
田坂彰規	東京歯科大学広報部長
倉地夏樹	昭和医科大学総務部総務課長
山崎和彦	日本大学歯学部庶務課長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
宇多美穂	日本歯科大学生命歯学部庶務部長
本官由比子	日本歯科大学新潟生命歯学部事務部長
中村琢磨	神奈川歯科大学総務部総務課長
宮崎 輝	鶴見大学総務部総務課長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
纈纈 力	朝日大学学事部入試広報課長
真新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
松村誠一	大阪歯科大学管理部長
都築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副病院長

(R8.3.31 現在)

## 受験生確保対策委員会

委員長：福本 雅彦  
日本私立歯科大学協会常務理事  
日本大学松戸歯学部長

氏名	大学名・役職名
古市保志	北海道医療大学歯学部長
渡邊義典	岩手医科大学入試・キャリア支援課長
福井和徳	奥羽大学企画・広報課長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
船山雅史	東京歯科大学教務課長
米山 亮	昭和医科大学入学支援課長
中澤謙司	日本大学歯学部教務課長
村山賢是	日本大学松戸歯学部教務課長
星川由利子	日本歯科大学生命歯学部入試広報担当
元井敏晴	日本歯科大学新潟生命歯学部教務部・学生部課長
青山典生	神奈川歯科大学募集広報部長
栄角政利	鶴見大学入試センター事務部入試課長
中村浩彰	松本歯科大学歯学部長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
真新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
畠山宏史	大阪歯科大学アドミッションセンター課長
稲井哲一朗	福岡歯科大学学生部長

(R8.3.31 現在)

## 研修委員会

委員長：小林 琢也  
日本私立歯科大学協会常務理事  
岩手医科大学歯学部長

氏名	大学名・役職名
長原利明	北海道医療大学事務局長
齊藤 旭	岩手医科大学歯学部教務課長
福井和徳	奥羽大学事務局長
伊藤 敦	明海大学歯学部事務部長
山下秀一郎	東京歯科大学法人事務局長
佐々木 真	昭和医科大学人事課長
佐々木 孝全	日本大学歯学部事務長
勝俣剛勇	日本大学松戸歯学部庶務課長
田口 潤	日本歯科大学生命歯学部事務部長
若槻紀寿	日本歯科大学法人事務局長
遠藤雄祐	神奈川歯科大学総務部人事課長
平野 司	鶴見大学総務部長
廣瀬國基	松本歯科大学事務局長
石本昭彦	朝日大学歯学部事務部長
真新 薫	愛知学院大学歯学部事務長
清廣哲之	大阪歯科大学法人事務局長
石橋慶憲	福岡歯科大学事務局長

(R8.3.31 現在)

## 歯科医師臨床研修の在り方検討委員会

委員長：藤井 一維  
日本私立歯科大学協会副会長  
日本歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
舞田 健夫	北海道医療大学病院副院長
浅野 明子	岩手医科大学歯科医師臨床研修センター長
川原 一郎	奥羽大学歯学部教授
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
平田 創一郎	東京歯科大学臨床研修委員長
長谷川 篤司	昭和医科大学歯学部教授
萩原 芳幸	日本大学歯学部卒業後教育担当
山口 秀紀	日本大学松戸歯学部卒業後教育担当
小川 智久	日本歯科大学生命歯学部臨床研修管理委員会プログラム責任者部会長
二宮 一智	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床研修指導歯科医長
清水 統太	神奈川歯科大学研修管理委員長
山口 博康	鶴見大学歯学部学内教授
中村 浩彰	松本歯科大学歯学部長
村松 泰徳	朝日大学医科歯科医療センター長
小島 規永	愛知学院大学歯学部准教授
百田 義弘	大阪歯科大学学生部長
都築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院長

(R8.3.31 現在)

## 診療参加型臨床実習の在り方検討委員会

委員長：櫻井 孝  
日本私立歯科大学協会副会長  
神奈川歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
長澤 敏行	北海道医療大学歯学部教授
山田 浩之	岩手医科大学附属丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部附属病院長
横瀬 敏志	明海大学歯学部病院長
渡邊 章	東京歯科大学臨床教育委員長
長谷川 篤司	昭和医科大学歯学部教授
佐藤 秀一	日本大学歯学部付属歯科病院長
深津 晶	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
山瀬 勝	日本歯科大学生命歯学部教務部副部長
海老原 隆	日本歯科大学新潟生命歯学部臨床実習教育委員会副委員長
杉原 俊太郎	神奈川歯科大学臨床実習連絡委員長
山崎 泰志	鶴見大学歯学部教授
亀山 敦史	松本歯科大学教授
宇野 光乗	朝日大学歯学部臨床実習センター長
諸富 孝彦	愛知学院大学歯学部教務委員長
山本 一世	大阪歯科大学教務部長・理事
都築 尊	福岡歯科大学医科歯科総合病院副院長

(R8.3.31 現在)

## 附属病院感染対策協議会

議長：高橋 裕  
日本私立歯科大学協会常務理事  
福岡歯科大学学長

氏名	大学名・役職名
永易 裕樹	北海道医療大学病院副院長
山田 浩之	岩手医科大学附属丸メディカルセンター歯科医療センター長
鈴木 史彦	奥羽大学歯学部附属病院長
星野 倫範	明海大学歯学部医療安全執行部長
笠原 清弘	東京歯科大学水道橋病院副院長
マイヤース三恵	昭和医科大学歯学部准教授
米永 一理	日本大学歯学部学部長
小椋 正之	日本大学松戸歯学部付属病院副院長
石垣 佳希	日本歯科大学生命歯学部教授
水谷 太尊	日本歯科大学新潟生命歯学部准教授
岩下 英夫	神奈川歯科大学院内感染防止対策委員 (ICT担当)
大島 朋子	鶴見大学歯学部教授
栗原 祐史	松本歯科大学教授
亀川 義己	朝日大学歯学部助教
宮地 齊	愛知学院大学歯学部准教授
松本 和浩	大阪歯科大学講師
橋本 憲一郎	福岡歯科大学准教授

(R8.3.31 現在)

## 賛助会員企業

紹

介

コ

ー

ナ

ー



## 医歯薬出版株式会社

弊社は、医学・歯科医学・栄養学・臨床検査学・リハビリテーション医学・看護学・東洋医学など、医療や健康にかかわるさまざまな領域において出版活動を行っています。創業以来100年余にわたる意欲的な出版活動は、関係各方面から高い評価をいただいております。

日本私立歯科大学協会の会員大学様に対しては、1970年代から本格的に教科書をご提供申し上げており、現在は白い表紙の「白本」として親しんでいただけているかと存じます。今後も定期的にメンテナンスを行い、正確でわかりやすい、教育の質の向上に資する教科書を制作していくとともに、時流を踏まえデジタル教科書・デジタル教材の開発も検討し、より一層皆様をサポートできるように励んで参ります。

引き続きご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

## 事業内容

- ・医学、歯学、薬学、ならびに自然科学に関する図書の出版および販売
- ・自己所有不動産の賃貸

雑誌は週刊1誌、月刊6誌、季刊1誌の計8誌を発行、書籍は年間平均約150点の新刊、700点の重版を発行し、現在約2,000点の発行点数を有しています。



代表取締役社長  
白石 泰夫

## 所在地

〒113-8612  
東京都文京区本駒込 1-7-10  
TEL 03-5395-7600  
FAX 03-5395-7639  
<https://www.ishiyaku.co.jp/>

## 日本歯科企業協議会

日本歯科企業協議会は、1971年に歯科業界から有志が集い創設され、歯科業界の繁栄と共に成長し、2021年には創設50周年という節目を迎えました。発足以来、日本の歯科業界において、製造業、流通業、輸入業など、業態の枠を超えたつながりを築き、情報交換、研鑽の場を提供してまいりました。国民の健康寿命を延ばし、患者様のQOL（生活の質）を向上させるためには、口腔の健康維持が重要であるという認識が高まってきている中、歯科医療関連企業の果たすべき役割もますます大きくなってきています。

一方で、DXやAIの進歩とともに、明るい未来の歯科医療や業界の在り方が問われる時代でもあります。

業界の発展に尽力してきた先人たちの教えを大切にしながら、多様性が広がる中で歯科医療業界の新しい可能性をどのように切り拓いていくべきかを、会員の皆さまと共に考え、取り組んでまいりたいと存じます。

そしてそれが将来、国民の健康維持につながることを祈念致しております。

## 事業内容

日本歯科企業協議会は、歯科業界（メーカー・卸商・小売商等）の有志が相集う任意団体であり、会員の研鑽と英知の結集によって業界の健全な発展を図ると共に、口腔衛生の向上及びより良い歯科医療に寄与するため、有用な助言と活動を行うことを目的としています。

- 事業内容
- (1) 会員の研修
  - (2) 必要な調査研究
  - (3) 必要な資料の作成配布
  - (4) 歯科業界各団体との提携、協力及び必要な援助
  - (5) その他必要と認める事業



会長  
吉田 一郎

## 所在地

〒110-0056  
東京都台東区小島2丁目16-14  
日本歯科器械会館 3F  
TEL 03-5825-8727  
FAX 03-5825-8728  
[info@jdicc.com](mailto:info@jdicc.com)

## 一般社団法人 日本私立歯科大学協会加盟名簿

### ■加盟大学および学部■

北海道医療大学歯学部  
 岩手医科大学歯学部  
 奥羽大学歯学部  
 明海大学歯学部  
 東京歯科大学  
 昭和医科大学歯学部  
 日本大学歯学部  
 日本大学松戸歯学部  
 日本歯科大学生命歯学部  
 日本歯科大学新潟生命歯学部  
 神奈川歯科大学  
 鶴見大学歯学部  
 松本歯科大学  
 朝日大学歯学部  
 愛知学院大学歯学部  
 大阪歯科大学  
 福岡歯科大学

### ■賛助会員■

(株) シ	ラ	ネ	(株) 田中歯科器械店
(株) ヨ	シ	ダ	医歯薬出版(株)
デンツプライシロナ	(株)		(株) ブイ・エス・シー
長田電機工業	(株)		エンパワーヘルスケア(株)
(株) 東京技研			メデイア(株)
(株) ジーシー			(株) メルリックス
吉田精工	(株)		大榮歯科産業(株)
(株) 八		甕	ネオ製薬工業(株)
サ	サ	キ	日本歯科企業協議会
(株) モ	リ	タ	(株) アイダ設計
(株) ニ	ッ	シ	ン
(株) 松			(株) オールデンタルオフィス
(株) モリタ製作所			(株) 竹中庭園緑化
日本歯科薬品	(株)		(株) 東京歯材社
(株) 玉井歯科商店			イオンディライト(株)
石福金属興業	(株)		(株) アトリエMEME
沖歯科要材	(株)		(株) ロ
(株) J M O r t h o			ッ
(株) トクヤマデンタル			テ
(株) ミ	ク	ロ	(株) ジャパンアート
(株) モリタ東京製作所			(株) 綜企画設計
(株) Y	D	M	ミサワリフォーム(株)
サンメディカル	(株)		タカラベルモント(株)
			サンスター(株)
			(株) ナ
			カ
			ニ
			シ

### ◇編集後記◇

協会広報第91号をお届けします。

今号の巻頭言は、昭和医科大学の馬場一美歯学部長からいただきました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

今後とも、協会広報の内容の充実に努めてまいりたいと思いますので、ご意見・ご要望等がございましたら、協会事務局までお寄せくださるようお願いいたします。

広報委員長（協会常務理事）  
 福本雅彦

令和8年3月31日発行

## 日本私立歯科大学協会広報 第91号

発行人 一般社団法人 日本私立歯科大学協会 羽村 章

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-9 私学会館別館第二ビル2階

電話 03-3265-9068 FAX 03-3265-9069

協会のホームページアドレス <https://www.shikadaikyo.or.jp>

制作協力：倉敷印刷（株）

「題字」及び「シンボルマーク」について

【題字】初代会長 白数美輝雄先生の揮毫

【シンボルマーク】協会の英語表記「Japanese Association of Private Dental schools」の頭文字を図案化（初代専務理事 宮田侑先生による）